


会議録

会議の名称	令和4年度第2回文化振興審議会			
開催日時	令和4年5月24日(火) 開会時刻 午後5時30分 閉会時刻 午後7時30分			
開催場所	ふじみ野市ステラ・イートスタディールーム			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	伊藤 裕夫	副会長	進藤美奈子
	委員	遠山菜穂美	委員	渡辺 行野
	委員	福田眞智子	委員	小林葉津子
	委員	尾澤 景子	委員	田中 義則
	委員		委員	
会議の議題	(1) ふじみ野市立文化施設指定管理業務仕様書(案)について (2) 第2期文化振興計画策定に係る市民ワークショップ開催報告について (3) 第2期ふじみ野市文化振興計画施策(案) (4) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0 人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	市民活動推進部 文化・スポーツ振興課			
議事の確定	確定年月日	令和4年5月30日		
	記名押印	役職名 会長 伊藤 裕夫		

(会議の経過)

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
文化・スポーツ 振興課長	あいさつ
伊藤会長	<p>議事1「ふじみ野市立文化施設指定管理業務仕様書(案)について」に入ります。</p> <p>指定管理者制度を利用して2つの文化施設の管理を行うことをここで承認して、その上で、市の方で指定管理者の選定委員会を設置しており、その委員会で細かい募集要項等を固めて募集を図っていきます。通常は3, 4社応募が来るので、書類審査し、公開プレゼンテーションで審査をして決定する流れになります。募集にあたっての大きなポイントとしては、指定管理者にやってもらうことは施設管理に加え、事業の企画・運営になります。貸館や公民館機能の問題等も入ってきます。ホール、図書館以外の機能が入ります。人件費等を含めて、指定管理者のノウハウを活かして、現在より安く質が良いものができる方向で考えていきます。費用面の資料はあくまで指定管理料を算出するためのモデルで、結果的に歳入と歳出を引いた差額を保証してあげないと指定管理者が赤字になってしまいます。この計算では赤字にはならず、貸館料を増やしたり、良い事業を実施してチケットを売ったりして、頑張れば少し儲かるなど。赤字の場合はあなたたちの責任というような指定管理料を出すために算出したものがここに入っています。気になるのは事業費です。資料1-3について説明をお願いしたい。</p>
事務局	資料1-1～資料1-4について説明。
尾澤委員	資料1-1の4ページについて、図書館と文化施設の指定管理者が別々になる場合、そちらの連携はどのようになっているのですか。
事務局	<p>本来はCの一括公募が好ましいかと思いますが、図書館は日本全国で見ると管理できる会社のごくわずかしかなかった。そこが取った時に、文化施設の方が、質の低い会社と組まれると、図書館はAランクだが文化施設はCランクとなることを避けたいので、両方ともAランクが望ましい。仕様書には、連携して運営してくださいと書いています。</p>
伊藤会長	<p>いずれにしても、複数の指定管理者が入ってきます。SPCという建物自体を作ったところが基礎的な管理をしています。下の表に調整として多い少ないと書いています。1社であれば一番良いが2社入ってくると話し合いをしないとイケません。どのように話し合いを設けるかが課題として出していく必要が</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
事務局	<p>あります。選定委員はプレゼンテーションの時に質問をします。予期しない指定管理者が入ってきたときに調整できるのか。市民の利用団体と話し合いの場を持てるのか。市民と協働できるのか、そのような経験があるのか。しっかりと答えられるのか、選定委員会でも重点的に神経をつかって選びたいと思っています。</p> <p>公民館の要素がなくなるという話はしていません。市の社会教育主事の資格を持つ職員が施設にはいませんが市役所にはいます。施設には民間の社会教育士が入り、これまでより事業も拡充します。公民館事業も拡充しながら市の社会教育主事と民間の社会教育士がコラボしながら発展して地域課題の解決に取り組むという考え方です。</p>
伊藤会長	<p>複雑で、指定管理者が一番悩むところです。図書館もある。他市の事例では、指定管理者の学芸員と市の学芸員とがけんかになることもあります。そこをどのように収めていくかがマネージメント力なので、経験していく中で良くなっていくこともあります。市民の中で、両者の間に入ってうまく使っていく人が増えてくればうまくいくのではないかと思います。</p>
事務局	<p>資料1—4について補足説明。</p>
伊藤会長	<p>不安な点があれば、後日でも構わないのでご意見をいただきたい。建設時にも審議会からの意見を伝えているので、今回も強く述べていきたいと思っています。5月中くらいでご意見をいただきたい。</p>
田中委員	<p>図書館の指定管理は新規なのですか。現在の指定管理者が継続するのではないのですか。</p>
事務局	<p>来年の4月から新しくなります。今までと違うのは、大井図書館は西の文化施設の一部になり、4階建ての中に複合施設として入ります。新たに指定管理者を募集していますが、運営や本の貸し出しが変わることはありません。時間を拡大するなど、プラスアルファを期待しています。</p>
伊藤会長	<p>図書館の指定管理者ができるのは大手2社しかありません。図書館に関しては直営も多いです。新しい施設になるので、今やっているところにもきちんと提案してもらい、もう1社も手をあげるかもしれないので、そうであれば競争して、より良い方にやってもらいたいと思います。</p>

発言者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福田委員	<p>素朴な意味で、市民が使いやすいようにという願いは人一倍強いです。例えば、チケット制度を導入することに違和感があり、反発する団体がいることなどを耳にしています。</p> <p>どんな立場の人もそこで活動したいというのは市の基本姿勢として持って欲しいです。専門の業者に委託をする意味は、いくらかは理解しましたが、心の片隅にこれで大丈夫か、利用しやすくなるのかという不安が大きい。そうした点を大事にして選定して欲しい。そもそも、業務委託や指定管理は好きではありません。市は責任を持って頂きたい。やむを得ないという事は理解しないといけませんが、そうした意見があることを反映していただきたい。</p>
伊藤会長	<p>チケットについては、指定管理者が自分で呼んできたアーティストなどのチケット販売は簡単です。市民が使うときに代行してくれるかどうか。あるいは予約システム、今は、ある程度行っていると思います。初めての人は戸惑うかもしれないが、そんなに難しくないので、説明をしていくしかない。指定管理者にきちんと提案して欲しいことを要請することはできます。</p>
事務局	<p>ホール事業など席取りに並ぶのが大変で、自由席だと早く一時間前に来られる方もたくさんいらっしゃるので、席を予約するシステム10分前に来て座れる、無料であろうが有料であろうが、コロナの関係もあるので、今の時代には必要だと思います。リハーサル中で1時間前は入れないこともあれば、30分前であればよいという話ですが、年配の方は100人くらい1時間前から並んでしまう。席を予約して確保できることを理解してもらえれば早く来ることはない。サービス向上につながっていくのではないかと考えています。</p>
進藤副会長	<p>公民館がネット予約になった時に、予約ができないと大騒ぎになったこともありました。最初は慣れないが、ちょっとずつ慣れていけば良いと思います。</p>
伊藤会長	<p>チケットに関しては、そういう業者があつて、指定管理者は契約している。独自のシステムもある。多くはチケットぴあのようなところと提携しています。</p>
小林委員	<p>外から何かを聞きに行く時、常時親しんでいる方は、チケットがあるからこの時間に合わせていくという、タイムラグがないのは当たり前になっています。便利なことは、それぞれ感じ方で違います。実感していただいて、気持ちが温かくなれば伝わるのではないのでしょうか。心がけないといけないマナーがあると思います。便利さを実感できることは大切なことだと思</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
尾澤委員	<p>ます。 専門家ではないが、ここに来て、ホールのピアノの音が良くないということを知ります。ピアノの調律師が専任でいるとすごく良いと思います。できる方はちょっとした演奏会でも全部見てくれる。調子が悪くなった場合、飛んできてくれる。ホームドクターのような調律師。ピアノを長く維持することを考え、市の宝になる良い音になると良いと思います。</p> <p>指定管理者がどれだけ専門性があるかは大切。質の高いものを常に維持することを求めている。どれだけ引き出しがあるか。重点的に見ていただきたいです。</p>
伊藤会長	<p>いわゆるプロの会社が手配してやるのはお金をかければいくらでもできます。むしろ市内の新人を発掘して市民がつくる文化を大切にすることについては得意不得意がある。応募があった段階で、公表できないこともあるが、選定委員会までに審議会が1～2回できるので、どこに焦点を置いてほしいか議論したい。</p>
事務局	<p>議事2 第2期文化振興計画策定に係る市民ワークショップ開催報告について 議事3 第2期ふじみ野市文化振興計画施策（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2-1に基づき説明 ・資料2-2 市民ワークショップでの意見とりまとめ ・資料3 新施策体系の令和3年度骨子案検討結果 ・資料4 第2期文化振興計画の骨子案（修正案）について説明
伊藤会長	<p>基本方針1では、文化施設でできることもあって様々な声が出た感じがします。基本方針2では、歴史文化に対して若い人の関心が強いと感じたが、具体的には煮詰まっていないので、方針の中にも文言にして拾い上げて強化する必要があります。</p> <p>基本方針3では、つながりの問題、第1期の計画を踏襲して進んでいく形になります。このように、3つの枠に落とし込んだものを見て、過不足を考え、6つの施策の方向、12本くらいの施策についても見直していきたいと思います。</p>
尾澤委員	<p>5月15日のワークショップに参加しました。漫画家の RIKIさんがいて、歴史に重点を置いた議論になりました。基本方針2の「みつける いかす」の1について、修正ということでふじみ野の文化資源を生かした地域活性化となっていますが、元々川越市のように世間的にこれというものがない。ここで文化資源というと、余計にぼやけるのではないかと。第1期計画に</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
伊藤会長	<p>あった歴史の文言を削除したが、歴史について知りたい人がいたのが驚きでした。子どもたちに伝えたいという意見もすごく多かったです。歴史的なものを背景に、ふじみ野の文化資源について、具体的に歴史の中にもありますということや、新たに施設ができることでつながっていくことが、知識のない市民には、何を言っているのかわかりにくいと感じた。ワークショップでは、各団体が横のつながりが無いと言っており、大井と上福岡で独自の文化感覚があることを感じました。</p> <p>漫画家のRIKIさんが郷土資料館の漫画を調べながら作っている話で盛り上がっていました。文化資源の候補はたくさんあることがわかりました。それを文化資源にしていきましょうということ。発見する視点が必要と感じました。</p>
尾澤委員	<p>発見・発信という言葉は良いと思う。では、どうすればよいという時に、方向性というか、感覚としてわからないこともあると感じました。</p>
福田委員	<p>私もワークショップでは同じグループにいました。印象的なのは、半世紀近くこのまちに住んでいるのに、知らないことがたくさんあったこと。いかに色々な資源が普通になっていないかわかりました。機織りについても、ダンボール一枚で機織りができることなど、本当に知りませんでした。そのような情報を得ることができるワークショップっていいなと思いました。また、世代を超えて、こんなにふじみ野のことを知ろうとしている人がいることに励まされ、輪が広がると良いと思います。文化資源は堅苦しいが、具体的にこんなものがある、こんな方が活躍しているなど、情報発信ができると良いと思います。</p>
小林委員	<p>知らなかった以前に、生活するだけのところで何の関心もありませんでしたが、知ることは関心が出ることで、都内に通っているだけの方もたくさんいらっしゃるの、愛情を持つには知ることから始まり、たくさんの方のことを発信することが大切だと思います。すぐに愛着を持ってください、すごい歴史がありますとバンと出すものではなく、親しむことが一番重要だと思います。色々なことに参加すること、ワークショップに参加した方が起点となって、次の段階に参加していくことができると良い。それがワークショップや未来応援事業として市役所からサポートしていただき、実行できること、次の段階が大切なことだと思う。何気なく良かったと思うことがたくさん溢れるように、地道にやっていかなければならないと思った。知ることは愛情がわくことだと思います。</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
伊藤会長	<p>知らないことを知るという点では、公民館のサークルの活動を体験できる機会が欲しいという若い人の声が多かったですね。後継者探しも当然あると思います。</p>
渡辺委員	<p>基本的視点の3番目について、参加することで愛着がうまれるということはとても大切なことだと思っています。最近、学生たちが直接的な関わりができないことがすごく影響している。生で直接的に関わることの意味はすごく重要。以前、実際に参加して社会人になった学生は未だに当時の関わりがすごく良かったと言っています。それが愛着につながっています。そうした意味で、参加していくルートをつくっていくことが大切だと思います。基本方針2の文化資源については難しい印象があるかもしれないが、広い意味を持っていると思います。難しいようであれば、かっこ付けをしてわかるようにしてもよいのではないかと。1つには、学生たち、若者が参加しやすいと人が入ってくると思う。ただ、その中で、モノ、ヒト、コトがあり、すべて文化資源にかかわっていると思う。実際にそこに存在していること、自分たちが埋もれてしまっている、存在に気づいていないこともあると思う。そうした意味で、そこに存在していること自体が文化資源だということを伝えていくことが大切。そのため、文化的創造は、過去の存在だけではなく、今そこに存在している人が、現在進行形で文化的創造をつくっている。自分たち一人ひとりの存在が大事なんだとわかった上で、個々の力を活かしていく、そうした意味も読み取れるので、この言葉は良い言葉だと思いました。</p>
遠山委員	<p>今のことも大切。別の面から、どんな人にも歴史があり、家や地域と拡大していくと、歴史の中に自分がいて、自分はどんな人なのか、どんな存在なのか、突き詰めていくと、歴史や文化の中に必ずいると思う。文化資源で難かしければ、例えば歴史や文化、伝統芸能など。私の大学は川越市ではあるが、ふじみ野市のすぐそばなので、そうした地域性の中において、自分たちも活動している自覚を持つことは、生きる活力になり、そうした言葉に言い換えてもいいし、「歴史文化」「伝統芸能」とするとわかりやすいのではないかと。また、基本方針2の中で1と2にわかれている、最初は文化芸術情報の発信だったが、1と2は文化資源があるということをネットワークで伝えるのではなく、もっと大きな意味に変えるということなのではないか。</p>
伊藤会長	<p>こういう風に変えた方がよいのではないかと提案してもらった方がよいかもしれない。</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
遠山委員	<p>文化を伝えることに特化してもよいのではないか。そうでないと、イベントが開かれますとか、色々なネットワークにつながってしまうので、それは別枠でやって、そうすると前の言葉を活かして、文化芸術というの意味がずれてしまうので、地域の文化の発信、ネットワークづくりなど、良い文言を考えていただきたい。</p>
伊藤会長	<p>第1期計画の基本方針での「つなぐ つたえる」をなくすのは惜しいと感じています。比重の置き方を工夫することで、伝える要素、「つなぐ」についても多くの団体から声が出ており、コーディネートという要素にもなる。そのあたりをつないでいれないといけない。若い人がもっと入ってきて広げていく必要があると思います。</p>
田中委員	<p>サークルでダンスを中心に活動していたが、ふじみ野市では会場を貸してもらえなかった。川越市や狭山市、三芳町でも、大きなところで16～20団体くらいが一緒になって年2回くらい発表をしています。ふじみ野市ではなかった。意見もあったが、施設がなかった。普通は体育館を貸してもらえるのだが、ふじみ野市だけはダメだった。おそらく、床が傷つくという理由ではないか。今はフクトピアを使っています。</p> <p>「つどう であう」ではないが、交流は大切だと思います。今は小さなところで活動しているので、全体で何かやることはできないが、全体でできると情報も入り、交流もできるので楽しいと思います。</p>
伊藤会長	<p>これもワークショップで出たのだが、2～3年前から中止になってしまった文化フォーラムで、サークルの方が初めての方の入会体験をしていたことがあり、復活してほしいという意見がありました。</p>
田中委員	<p>会場が出来上がったらぜひやりたいと思います。</p>
進藤副会長	<p>私はワークショップに参加できませんでしたが、参加した人の感想を紹介します。ワークショップで色々な意見を言えたことが幸せだった。また、生まれも育ちもふじみ野だったが、改めて感じたのは、自分の知らないアーティストや施設があったことが驚いた。それらの情報を掘り下げて整理してできるだけ多くの方に認知していただくことがファーストステップだと思う。開催前には、参加するのが嫌だという意見が大量に来ていたが、ぜひ行って自分の意見を言ってほしい。行かないと意見は通らない、市民の意見が一番だと伝えました。終わったら皆すっきりした様子で、参加して良かった、楽しかったと返信が</p>

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
	<p>来た。また、横のつながり、普段会わない人たちと会ったことが楽しかったと思います。ワークショップをする時に、人が集まらなると大変だが、集まるようにならないともったいない。ここに来て意見を言って反映できること、ワークショップに参加する期待度のあるものが、市民に伝わらないのがもったいないと思っています。</p> <p>私が指導するコーラスのメンバーも参加したが、行って良かったとおっしゃっていた。諦めるのではなく、意見を出したら伝わったということができること良い。公民館を使えない人も思いを伝えられる機会。色々な人がたくさん来ると良いですね。</p>
伊藤会長	<p>つながっていくということについて、強化していく方向のご意見があればお願いしたい。</p>
尾澤委員	<p>文化資源のことで、渡辺委員のモノ・ヒト・コトが響いており、かっこ書きで入ってくる一言があるとありがたいと感じた。ワークショップの中で出たことで、思い出したこと。9頁にある「あなたのつくるアートがふじみ野の歴史に」について、違う言い方をしており、本当は、「あなたの存在がふじみ野の歴史になる」ということでした。</p>
伊藤会長	<p>「クリエイター」という言葉を若い人が使っていて、アーティストは敷居が高いのだが、クリエイターだと何でも入ってくる。貴重な文化資源だと思うので、そうした人を見つけたい。</p>
尾澤委員	<p>市民全員がクリエイターになれるまちがベスト。クリエイターとのコラボレーションから生まれるものが新たな文化になると良いとワークショップに参加して思いました。</p>
伊藤会長	<p>本日の意見を参考にしながら、施策の方向性を一部入れ替えていただきたい。基本方針2が少し弱いと感じているので、整理していただき、議論のたたき台になるものを計画書としてまとめてもらいたい。次回、1か月ほど時間を空けて、計画書の議論に入っていきたい。少し時間を延長してキーワードを出していただきたい。</p>
尾澤委員	<p>魅力とは何ですか。</p>
福田委員	<p>以前出てきた言葉で、シビックプライドという言葉があり、このまちへの愛着が生まれるような伝え方はどうしたらよいのだろうと、そんな視点は大切だと思います。はぐくむの部分だと思うが、そこの視点が抜けているのではないですか。</p>

発言者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
尾澤委員	子どもたちが資料館で機織りを体験していた。子どもがやったことが親に伝わっていないこと。それが何なのかということ。資料館があっても足を運ばない。絶対に行かないといけな理由をつけて来させたことで、目に入り気づくこともあるのではないか。例えば、資料館でマルシェをやるなど、関心がありそうなものと抱き合わせにしてそうした意識を育むなど。
進藤副会長	その記憶が大人になって効いてくると思います。
尾澤委員	基本方針3に入れ込む形にしてもらえると良いです。
伊藤会長	アート88は読むだけではなく実際に見に行きたい。今回は古田土さんが紹介されていたが、工房をオープンハウスにしてもらえると多くの人が見に行きたいのではないか。そういう場所は他にもあるのではないか。有名なものだけではなく、埋もれているもの。知っているけれど見に行くと発見になるもの。ふじみ野のシビックプライドにつながる気がします。情報だけではなく、リアルに対面、体験できる、触ってみる、五感を使って関わられるものを強く出していけると文化資源の活かし方につながると感じます。
田中委員	歴史の中で、ふじみ野市は唯一川越街道大井宿の本陣があった。なぜ、富士見市がふじみ野市の中にわずかな感覚だがずっと入っている。それも1の歴史なのだと思います。
事務局	江戸時代の参勤交代のために土地を取り換えた。街道に少しでも面していると、人馬の調達に有利になるためと聞いています。
伊藤会長	文化活動している人が交流して新しいことを始めるなど。
進藤副会長	スポーツ少年団など子どものグループで、普段やっていることではないことのツアーをするなど、歴史を学ぶプレゼンツとしてできると良いと思います。
伊藤会長	普段と違う体験。今、地域での部活動が話題になっています。スポーツが中心になっていますが、文化版はできないかと思っています。そのためには引率する先生が必要など、仕組み作りがないと難しい。公民館の方がコーディネーターを、自分たちがやっていることを活かしてそのような引率もできるのではないのでしょうか。スポーツの地域部活動はOBや元教師などが、文化で活用できる人は結構いるのではないかと思います。

発言者	議 題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
尾澤委員	<p>コーディネーター、文化施設と市、子どもたちをつなぐ役割の人が必要だと思います。そういう人は、ボランティアではやりたくない。報酬がもらいたいという話も少し出ていました。ちゃんと払うことができちんとしたものができ、今日はやりませんという突然のキャンセルもなくなります。コーディネーターの育成・確保はどうやっていくのですか。</p>
福田委員	<p>場の提供について。空き家や空き店舗の活用。市で管理して団体に提供してもらいたい。公民館では汚してはいけない、次の団体があるなど制約があります。思い切り活動できる場所にしたいですね。障がいを持つ子どもと絵のクラブをやっているが、思い切り活動したい。片付けは大変だが、のびのびできる環境があると良い。市のギャラリーの開放について、色々な団体や個人が申し込むが土日は利用できない。そうするとギャラリーが欲しいとなり、子どもたちが描いた絵に気軽に触れられるまちづくりにかかわるアートのまちの企画があればたくさん案を出せます。</p>
伊藤会長	<p>芸術不動産というものをいくつかの自治体がやっています。空き家の持ち主は人に貸すのを嫌がるが、行政がバックになると比較的協力してもらえます。空き家対策を兼ねて、10数の自治体でやっているようです。視察してマネをする手もあるのではないかと思います。</p>
福田委員	<p>文京学院大学の学生にも声をかけることができます。</p>
遠山委員	<p>学生は引っ込み思案と思いがちだが、本当は活動がしたいと思っています。それによって自分も支えられている、役に立っていると思えます。</p>
田中委員	<p>文京学院大学と高齢者の居場所づくりを高齢福祉課と一緒に考えています。どのようにしたら楽しく、ここで生活できて良かった、というものを作ろうとしている事例です。</p>
事務局	<p>人材登録や店舗の活用など、市で全部できるが、誰に何をすればどんなことができるか、市は情報を持っていない。そうしたところが欠けていますが、見つけ出すのも難しい。どのように作り上げれば良いでしょうか。</p>
伊藤会長	<p>アーティストバンクみたいなものを指定管理者に提案させる手はあると思うが、コーディネーターは、指定管理者は無理かもしれません。むしろ公民館で社会教育にかかわっている人の方がはるかに得意ではないでしょうか。交流の拠点のためのし</p>

発言者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>くみ、いくつかの分野に応用して、人や空き家、コーディネーターなど。基本方針2に入れ込むことでバラエティーを出していけると思います。思いついたら事務局へメールなどで提出していただきたい。今後のスケジュールとしては、11月までに素案という、まとまった形をつくりたいと考えています。材料はここでの議論、ワークショップ、計画の進捗、文化施設で加わるもの具体策、プランとしてたたき台をまとめてもらいたい。計画で今後の文化活動を保障していけるようにしたいと思います。</p> <p>次回の予定について 施策整理に少し時間をいただき、アンケート、市民ワークショップ、審議会でのご意見などを整理し、素案のたたき台としてまとめて提示したいと思います。次回は、8月下旬頃を予定させていただきます。</p> <p>閉会</p>